

	2017公立高校入試 分析と傾向	次年度以降の対策
国語	<p>やや長めの記述形式が増えた分、難易度が上がったように見えるが、その他の設問が比較的易しいため、昨年並みの平均点に落ち着きそうである。大問構成には変化はなかったが、出題形式には新傾向も見られた。配点は、1説明文(15点)、2古典(15点)、3小説(15点)、4作文(15点)であった。(なお、3は随筆ではなく、今年も小説。本文二段組み構成。4の作文の配点が今年も15点だった。)</p> <p>新傾向としては、「朗読の仕方」について、学校現場での言語活動の充実と絡めた記述形式の問題が出たこと。ただし、表現の仕方には主観的な部分や人それぞれの自由もある。これを記述させる出題は少々強引なのではないか。</p> <p>また、ここ数年、漢字の画数や品詞などの文法を問う設問が定着、今後も続きそうだ。全体として制限時間内に解き終わるよう配慮された質と量である。</p> <p>以下、大問ごとに。1説明文は読みやすい。「見当識」がテーマ。漢字は小学校高学年の漢字を確実に。2古典は漢文の書き下し文。孔子と二人の子との会話。3小説は奥が深い内容。4条件作文は、「地域の清掃活動」をテーマとしたプレゼンテーションに動画(スライド)をどう活用するか、について。二段落指定。</p>	<p>まず、国語は語彙力です。知らない言葉や漢字に出会ったときは、その都度調べてください。普段から「ことば」に対する感覚を磨き、日本語を使いこなす意識が必要です。</p> <p>次に古典に関して。古文・漢文は、短くておもしろみのある文章を選び、まずは音読から始めましょう。おおまかな意味を捉えることができれば十分です。</p> <p>最後に作文。作文力は書けば書くほど上達します。ただ、試験の場合は「条件」が設定されていますから、その範囲の中で、自分の主張を書くように心がけましょう。</p> <p>受験勉強において、国語という教科は最も勉強時間が少なくなりがちです。ただ、母国語であるからこそ、感覚に頼らず論理的に解く必要があります。</p> <p>現中2・中1生も、一度、今年の入試問題に挑戦してみることがオススメです。学校の定期テストとは異なり、初見の文章を大問1題につき約10分で乗り切っていく、それも国語は入試において最も緊張する最初の教科になりますから、実は思った以上に大変なのです。</p> <p>素早く読んで理解して、素早く過不足なく書くために、他教科と同様、どうしても訓練が必要になります。苦手な人は、問題集を丁寧に解くことによって、まずは平均レベルまで引き上げていきましょう。</p>
数学	<p>大問は6題。出題構成は、大問2が小問2つ構成へ変更。出題内容は昨年度とほぼ同じで、部分的に難化したところもあるが、それ以上にとりやすくなったところ(大問3、大問5の証明など)もあり、平均点は昨年より2～3点増の31点程度になると予想される。</p> <p>大問1 計算や方程式、関数、確率、資料の整理などの小問題が9問。基本的な問題ばかりなので確実に得点したい。(難易度は例年並み)</p> <p>大問2 記述式の連立方程式の問題。2問構成になり、(1)と(2)で何をx、何をyとおくかがわかり、立式することに重点をおいた問題となった。(難易度は例年並み)</p>	<p>①連立方程式の文章題 ②1次関数 ③図形の証明 この3つは毎年必ず出題される必須単元。1つでも苦手な単元があれば、早い段階で復習・練習し、克服していくことが大事。また、数学は『時間』との戦い。公立入試問題は問題文自体が長いので、できるだけ短時間で正確に読み取っていく必要があるため、図表にまとめる、ポイントとなる個所にアンダーラインをひいておくなどの工夫がほしい。</p> <p>大問1の小問集合は正確に得点を積み上げていく。当然、丁寧な計算が必要だが、上位校を目指す生徒は解答スピードが求められる。日頃から問題を解くときに『時間を意識して解く』という癖をつけておきたい。また大問2、3、5の記述・証明問題では練習量が得</p>

<p>大問3 昨年に引き続き、見開き2ページの文字式を使った証明問題。題意の理解→立式→証明と解くまでの流れも昨年と同じなので、対策をしっかりと行った子は解くことができたはず。(昨年よりやや易化)</p> <p>大問4 1次関数を活用した問題。一般的な速さに関する問題ではあるが、(2)以降はグラフの理解・計算力を必要とする問題となっており例年に比べ得点しにくくなっていた。(昨年よりやや難化)</p> <p>大問5 平面図形の求積と相似の証明。(1)の相似の証明は、昨年よりも易しめ。問題文の中で与えられた情報を理解し、図に記入していけば解答へ確実に結びつく問題だった。(2)の面積を求める問題は例年通り難易度は高め。(難易度はやや易化)</p> <p>大問6 空間図形の問題。辺の位置関係や展開図・断面図を必要とする問題。例年と同様、(2)(3)の難易度は高い。(難易度は例年並み)</p>	<p>点に直結する。傾向が変わっても対応できるように多様な問題への取り組みと練習を。</p> <p>さらに関数と図形の問題には、それぞれに正答率20%以下の難問が含まれている。中1中2年で習った図形の性質や公式・定理などを早めに復習し、それぞれの学年末までには確実な基礎力に仕上げておきたいところだ。</p> <p>近年、平均点が30点前後で推移しているが、来年度以降もこの状態は続くと思われる。今後のアドバイスとしては、①自分の弱点を知ること、②苦手な単元に早めに取り組むこと、③前向きにコツコツ復習、そして質問に来る！これしかない。がんばろう。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>社会</p>	<p>難易度は昨年並み。平均点は50%前後(30点)と予測。記述のウエートが増し、さらには両解や全解の設問も多いため、点数が取りにくい印象。</p> <p>大問構成は従来どおり、1と2が歴史(20点)、3と4が地理(20点)、5が公民(14点)、6が地理と公民と時事的な融合問題(6点)であった。全体として、歴史分野と公民分野は比較的平易な問題が多いが、一方、地理分野が近年難化傾向にあり、図表を使った問題が数多く出題されており、分析力が求められている。出題の意図を読み解けたかどうかポイントになりそうだ。(ただ、塾生は直前授業や予想模試、記述添削で解いたのと全く同じ出題やグラフが5問的中しており、社会科でアドバンテージを取れたはずだ！)</p> <p>1歴史 古代から現代までを網羅した形式に変更。平易な問題で解き易い。 2歴史(後半) 因果関係を捉えたうえで重要年代は覚えておきたい。歴史は1も含めて近現代に関する比率が高くなっていることが特徴。 3世界地理 オセアニアやアフリカなど前例のない様々な地域から出題。経度・緯度、時差は頻出事項。 4日本地理 難化傾向。歴史との融合や資料からの分析も新しい。 5公民 問3の介護保険が社会保険に分類されるところで迷った受験生が多いはず。他は記述も含めて平易な問題が並んだ。 6融合 情報科社会(インターネットやスマホ)と現代社会をテーマにした記述だが、例年と比べて難しくない。</p>	<p>近年、難化傾向にある社会科、その要因は暗記力ではなく、総合力が試されている点にある。一問一答による反射的な知識だけでは高得点は狙えない。一昨年度から入試問題が冊子化されたことを受けて、特に地理分野で図表が増え、記述問題も増加していることに留意しておきたい。また、過去問と似た出題もあり、公立入試の傾向と対策に取り組む際は、過去問と教科書を大切にしてほしい。</p> <p>重要なことは、用語を丸暗記するのではなく、知識を関連させ、似た語句との違いを捉え、使いこなせるようになること。そのためには板書や答えを書き写すことではないのは明白! 答えがあっていれば良いという訳ではない。授業では説明をしっかりと聞き、想像力を働かせること、問題を解いた後は解説を読み、考え方の道筋を理解することだ。</p> <p>①歴史は、まずは用語を正確に理解する。その際、時代と人物と出来事をセットにしながらか、知識を立体化していくように心がける。</p> <p>②地理は資料やグラフに慣れ、それを分析する目を持つことを心がけてほしい。また、教科書以外から知り得る知識や情報も役立つので、知的好奇心を育ててほしい。</p> <p>③公民は世相を反映した出題が増えている。テレビでニュースやドキュメンタリー番組も見たり、大人どうしの会話に割って入ったりするのもいい。身近な問題から世の中に対する見識を広げていこう。</p>
<p>理科</p>	<p>例年通り4分野(生物・化学・地学・物理)から大問2題ずつの構成。学年別では1年生の内容が3題、2年生内容が3題、3年生内容が2題。すべて実験、観察に関する問題で、教科書の隅々から出題されている。作図やグラフを描く問題、記述式の問題も例年通り多く出題された。単に知識を問うのではなく、実験や観察の方法や結果に対する考察を表現する力が問われている。</p> <p>1はメダカの観察の問題。標準的な設問で易しい。 2は細胞の観察に関する問題。記述問題の2問は深い理解が必要でやや難。 3は水とエタノールの蒸留に関する問題。標準的な問題ではあるが、問3では教科書のトピックページ</p>	<p>各学年の各分野から幅広く出題されます。出題内容は教科書から。実験・観察の目的、方法、結果、考察のすべてを理解することが大切です。なかなか大変ですね。</p> <p>そこで合格へのアドバイス。</p> <p>その1 実験に積極的に取り組もう! 絶対記憶に残るよ。</p> <p>その2 教科書を熟読しよう! 教科書こそ宝の山です。</p>

	<p>からの出題で戸惑った生徒が多かったようだ。</p> <p>④は銅と酸素の反応の問題。問3は表の数値から計算してグラフを記入する問題で難。問4の原子モデルの問題は易しい。</p> <p>⑤は天気の変化に関する問題。寒冷前線の通過、乾湿計、湿度から水蒸気量の差を求める計算問題、放射冷却に関する記述問題と幅広く出題され、苦手に行っている受験生には厳しい。</p> <p>⑥は月の観察の問題。月が見える位置と形の変化についてしっかり理解していることが必要。記述問題が2題。ここで差がつく。</p> <p>⑦は光と音の問題。問2の振動数の計算問題は難。問3のオシロスコープの波形を描く問題は初めての出題。</p> <p>⑧は力の問題。圧力や浮力を求める計算問題は苦手な受験生が多く、上位校の受験生はここが合否のポイント。</p> <p>全体的には難しい分野からの出題、計算問題が増えて平均点は昨年度より下がると思われる。</p>	<p>読めば読むほど理解が深まります。</p> <p>その3 単位の意味を理解しよう！ 計算の基本は単位です。 計算問題に強くなるぞ！</p> <p>その4 知ってることから予想しよう！ 理科のチカラは想像力です。</p> <p>その5 苦手単元から逃げない！ 入試は必ずやって来る。今すぐ始めよう。</p>
英語	<p>リスニング昨年に比べやや易。記号問題が増え、問題3の英語の空欄補充も昨年の2語-3語-3語から1語-2語-2語と少なくなり、問題4の英問英答も、7語から5語に減った。昨年の正答率53.2%より少し上がると思われる。</p> <p>①(対話文選択)対話中の空欄に入る適切な英文を選ぶ問題は長く出続けているが、2年前以前の問題と比べて明らかに問題文・選択肢の英文が長くなっている。1つのシチュエーション中に2つの空欄というのは新傾向。②の対話文読解で以前出ていた空欄補充問題が2年前からなくなったので、その代わりにこちらで1題出そうということか。</p> <p>②(対話文読解)形式は昨年とほぼ同様。問2の語句整序で、予想通り[主語+動詞]による後置修飾が出題された。福岡県では過去10年間で4回出ており、塾生には繰り返し練習させていたので、ほとんどの生徒ができていた。問3の本文要約文中の空欄補充は、本文の work in a foreign country を元に go (abroad) とさせるものが難しい。問4の英作文は、去年は書き出しの指定があったが、今年は質問内容を自由に考えるものになった。問1の本文中の空欄に会話の意味がとおるような3語以上の英文を書く問題</p>	<p>まず英語学習で基本となるのは英単語の暗記です。最初に覚える段階で、意味に加えて品詞、用法、発音、アクセントなどを一緒に学んでおくようにしましょう。特に用法については、動詞であればその後には前置詞が必要か不要か(goはgo to Tokyoのように使うがvisitはvisit Tokyoという形で使うなど)、形容詞であれば人にしか使えないものや物にしか使えないものがある(tiredはHe is tired.のように人に使い、「テニスをすると疲れる」と言いたいからとTennis is tired.とは言えず、その場合はTennis is hard.などとする)など、実際に使えるようにしておくことが大切です。さらに最近では今年のabroadのように扱われる英単語自体も難しくなっています。</p> <p>文法事項も大切で、英文を何となく雰囲気日本語にするには限界があります。不定詞は3用法のどれかを明確にして訳したり、接続詞のwhenなどがあれば後半から先に訳したりと、正しいルールに基づいた英文の理解を心がけましょう。特に福岡県で出題頻度の高い後置修飾については確実におさえましょう。</p> <p>一方で、まとまった長い英文を読む練習も必要です。時間内に問題を解くことを優先して、文章全体の流れやシチュエーションをつかみ、設問に関わる部分を探</p>

も、例年よりも正解の種類が増えるものだった。

③(長文読解)形式、難易度とも例年通り。問1・2の質問に対する内容を表す部分を本文から探し日本語で記述する問題は traditional(伝統的な)がやや難しめだが最近の中学生にとっては常識的な単語であり、訳しにくい部分もなかった。解答欄が2行分のスペースがあるわりに解答が1行で済んでしまうことが受験生の不安を煽った。

④(自由英作文)昨年までは、指定された書き出しを含めて35語以上だったのが、指定された書き出しと結びを含まずに30語以上という形に変わり、若干自分で書くべき語数は増えた。内容は「私たちの学校のよいところ」なのでテーマとしては難解ではない。ただ、自由に何を書いてもいいことで逆に何を書いて良いのかとまどった生徒もいた。

して、解答を作っていきます。長文読解もリスニングと同様、前から順に、意味の取れるまとまりごとに読んでいく方法がいいのですが、繰り返し練習しなければなりません。一度解いた長文を、スピードを意識して2度、3度と読み返すやり方が効果的です。

リスニングはCDのついた教材やNHKのラジオ、最近ではネット動画やスマホのアプリなどを使う方法もあります。ただし英語を聞くだけでなく、実際の文章内容を確認しながら音声を聞けるものを利用しましょう。自分の思っていた音と実際の音の違いを修正していくことが、リスニングの上達につながるからです。福岡県の問題は全体的に、場面に応じた自由な英語表現力が求められる問題になってきています。表現を学ぶ時には、必ずどういう場面で使うのか確認しましょう。(同じ「~どうですか?」の表現でも、How about ~?は何かを提案する場合に使い、How do you like ~?は何かの感想を聞く場合に使うなど)現中2生は大学入試の英語に関しても大きな変化のある学年ですから、英検やTOEIC BRIDGEといった英語の資格試験などにチャレンジして英語力を磨きましょう。